

## 入賞

# 明治用水の水漏れ事故 から学んだこと

裾野市内中学校

一年 川久保 さん

私の住む愛知県刈谷市には明治用水という用水があります。矢作川の水を取り込んで、飲み水のほか、農業や工業に使われています。私の家の近くにも明治用水の水路があり、近所の畑や田んぼに水を届けています。

田植えの季節には、毎年多くの水が流れてきます。ところが昨年の五月に、取水施設で水漏れ事故が起きました。この事故のことを私はニュースで知りましたが、その時はあまり関心がありませんでした。家でも学校でも水を普通に使うことができている、何も困らなかつたからです。ただ、用水路を見ると本当に水がありません。近所の畑で野菜を育てている農家の方は、

「いつ用水路に水が戻ってくるのかしら。」

と、不安そうに話していました。田んぼを見ると、水が全く入っていない、田植えが始まる様子もありません。いつもと違う近所の景色に気づいたとき、

「これは大変なことが起こったのだ。」  
と、私は初めて知りました。

調べてみると、百四十年以上人々の生活を支えてきた明治用水の水漏れ事故はとても大規模なもので、水の供給は数日間ストップしました。多くの工場が操業を停止せざるを得ず、農家の人たちにも大きな影響がありました。すぐに対策がとられ、地域をまたいで市役所や会社がポンプ車

を出動させたり、家庭でも節水をしたりして、協力し合っ  
て水を分け合っている様子が報道されていました。復旧工  
事を担当した人たちも大急ぎで作業を進めたといいます。  
二十日後くらいには普通の状態に戻りました。田植えはい  
つもより遅かったけれど、無事に終わって米作りも行われ  
たのです。完全復旧は二〇二五年ということで、現在も工  
事が続いているのだそうです。

私にとって、水は当たり前の存在でした。じゃ口をひね  
れば水が出て用水路を見れば水が流れているというのは当  
たり前すぎて、気に留めたこともなかったのです。水漏れ  
事故によって当たり前のことがそうではなくなったとき、  
初めて水の大切さを身近に感じました。飲み水や炊事、洗  
濯などの生活用水のほか、作物を育てる農業や、さまざま  
な製品を作り出す工業にとっても、必要不可欠なものだと  
改めて実感しました。

日本は水に恵まれた国です。恵まれているからこそ、水  
の大切さをあまり意識せずに生活しがちですが、人が生活  
するために水は必要不可欠であり、水を必要とする場所に  
届けるために働く人々もたくさんいるのです。小学校の社  
会の授業では浄水場に見学に行き、水がどのようにして上  
水道になるのか学びました。一日に人が使う水の量も教え  
てもらいましたが、大人の場合二・五リットルの水が最低

限必要ということでは想像以上の多さにびっくりしました。  
多くの人たちのおかげで、私たちは水をいつでも使うこと  
ができることを、私は学びました。

水は昔も今も、そしてこれから先の未来でも私たち人間  
にとって、すべての生き物にとって、地球にとって大切な  
資源です。これからも水の恩恵を受けた生活を送るために  
は、水を管理し届けてくださる方々の努力だけを頼るので  
はなく、水を使う私たちにもすべきことがあるはずで  
す。水のむだ遣いをやめること、節水を周りの人に呼びかけ  
ること、庭の水やりなどにお風呂の残り湯を使うことなどは、  
すぐにでも取り組みます。

私にできることを一つずつ実践していきたい、そう決意  
しています。